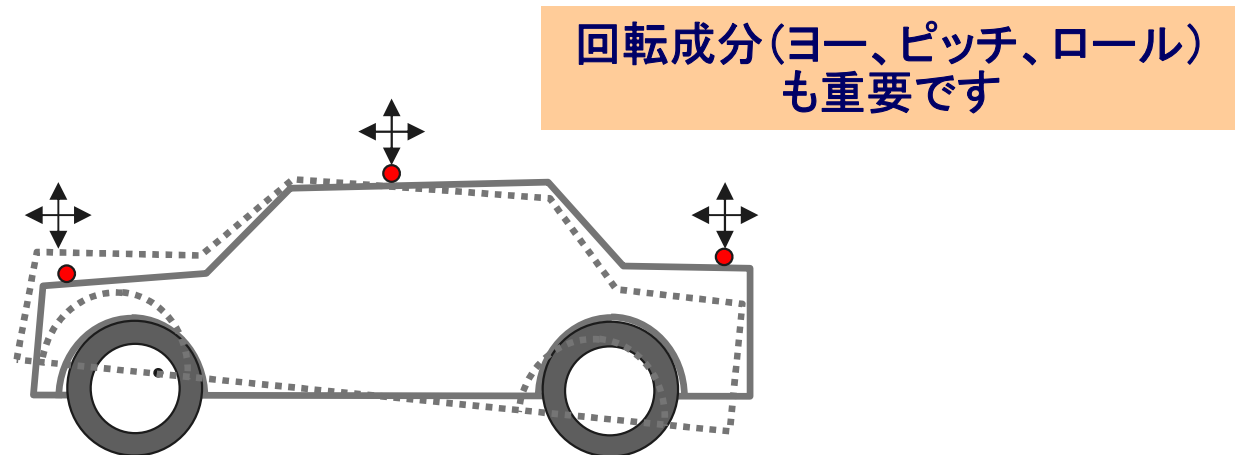


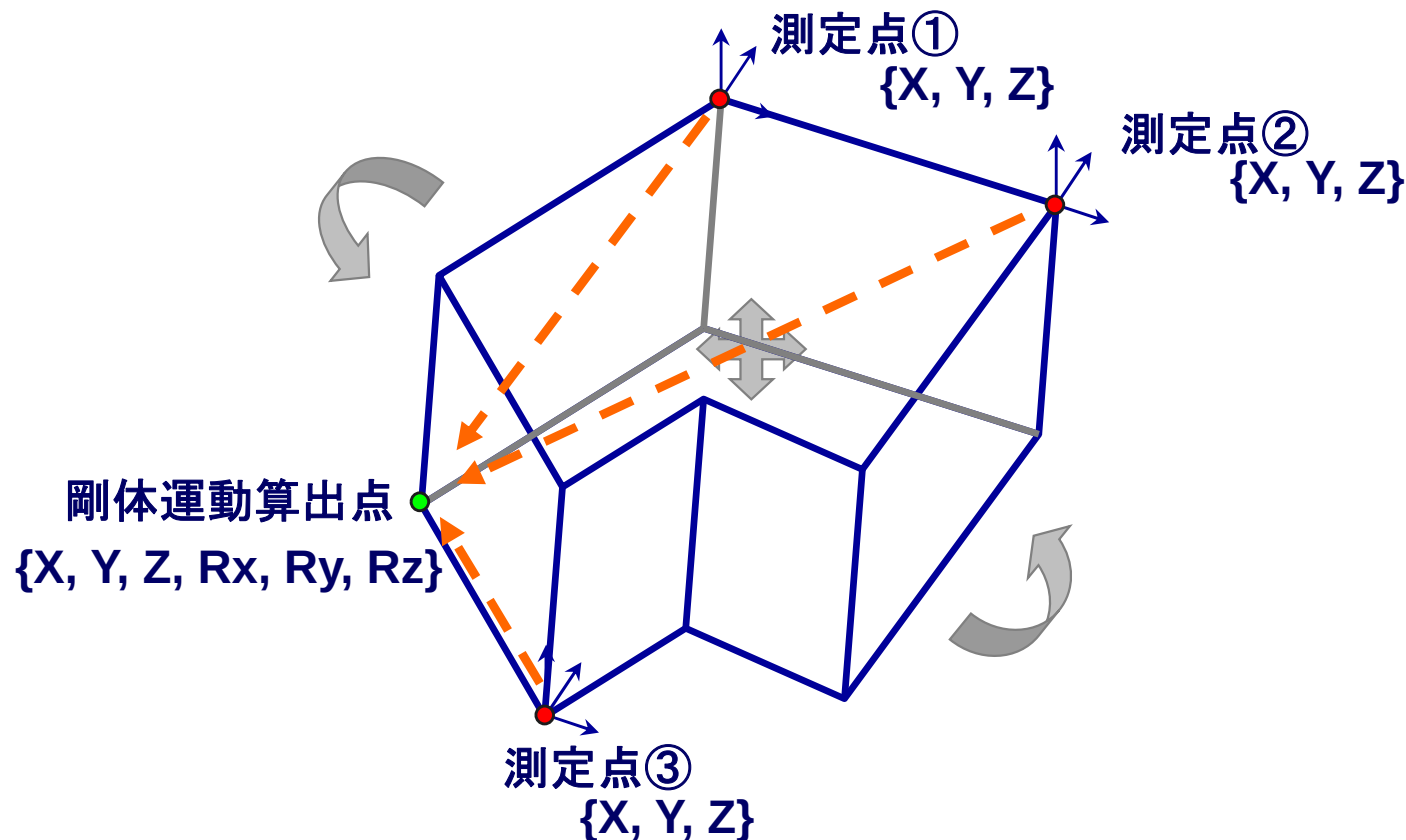
➡ 物体の運動を評価するとき、どの点で評価を行うべきでしょうか？

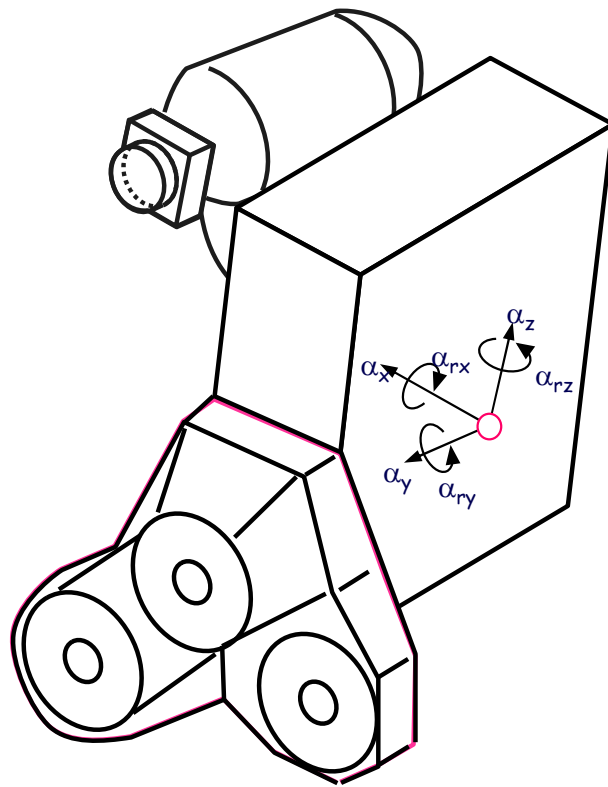
- 一般的に、計測できるのは並進方向成分のみ
- 回転運動を含む場合、並進自由度の計測だけでは、物体の動きを捉えきれません

✓ 例：自動車の運動

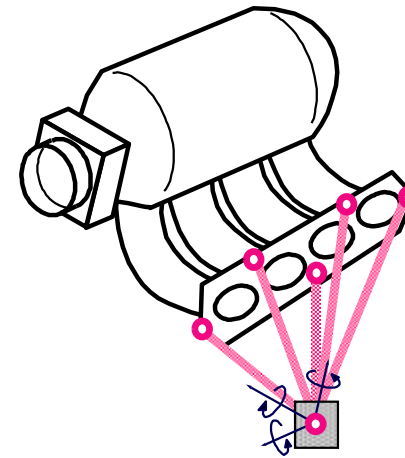


- ▶ 供試体を剛体と仮定した場合の任意点の剛体運動(並進3方向、回転3方向)を推定します





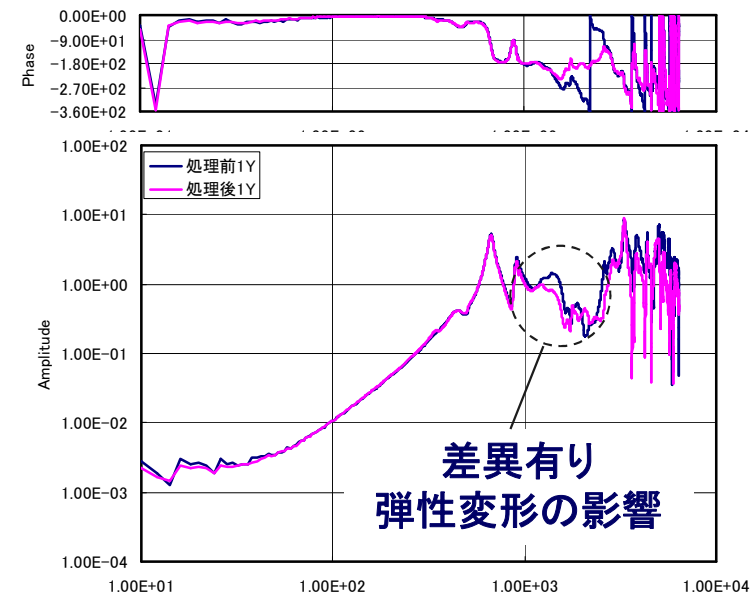
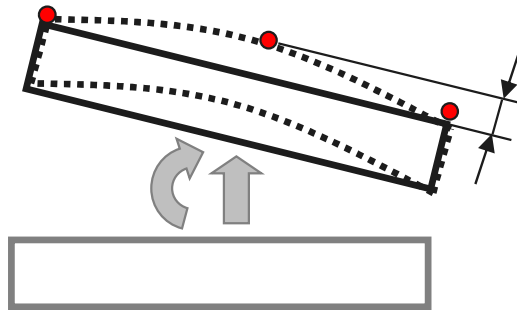
実稼動実験



シミュレーション

➡ 剛体運動以外に得られる情報

- ESTECH.Rmotionでは、推定した剛体運動から、測定点の運動を再合成する機能があり、供試体の弾性変形が測定点の動きに与えている影響を分離することができます



再合成結果との比較

➡ その他応用例

➤ 慣性特性の推定

- ✓ ESTECH. [I] propertyを用いて、推定した剛体運動から慣性特性を推定することができます

➤ 伝達関数合成法モデルの作成

- ✓ 結合面を剛体と仮定した伝達関数合成法モデルの作成に利用できます
 - 回転自由度も考慮した伝達関数合成法モデルを作成可能です